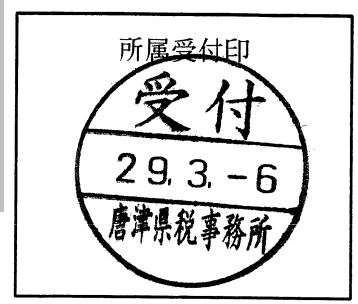


玄海原子力発電所 3・4号機の再稼働に関する意見

(この用紙は、県政提案箱へご投函ください。)

* なお、ご記入の前に裏面の〈お願い〉をお読みください。

テーマ	<p>★該当する項目をチェックしてください（複数選択可）。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エネルギー政策に関する事 <input checked="" type="checkbox"/> 原子力安全対策に関する事</p> <p><input type="checkbox"/> 原子力災害対策に関する事 <input checked="" type="checkbox"/> その他</p>
◎	原発事故が地震・津波を主体に論じられているが、原発事故はもっと広範囲の要因でも論じる必要があるのではないか
◎	我が国では戦後、国策でもって原発が導入されいながら、国としての国民に対する責任表明が希薄である
◎	この曖昧な国の姿勢が原発に関して、国民に最も不信感を与えている
◎	地元自治体の法的根拠が確立されていない
◎	玄海原発の場合、事故が起これば広範囲にその影響が出ることは明らかなのに、人口6千人余りの玄海町のみが地元自治体の位置付けを担うのには矛盾が多すぎる
◎	使用済み核燃料の最終処分の具体的な目処が立たない限り、原発敷地内に貯蔵すべきではない。特に玄海原発では貯蔵限度が切迫している現状を踏まえると、再稼働をすべきではない
◎	国・電力会社は安全を強調するが、そうであれば、なぜ、避難訓練が必要なのか原発は安全であるから、避難訓練は必要がないと明言出来なければ、原発は稼働すべきではない
◎	一旦、重大事故が起これば、天が与えてくれた豊かな自然と先人が築き、引き継いで来た価値ある歴史と文化を手放さなければならない。このことは福島が如実に物語っている。
	人間は科学の力を過信しすぎて時として傲慢になり、自然界に対する畏敬の念を放棄して目先の利益を追及する。
	この人間としての重要な理念は経済性云々と同列で論じるものではない。豊かな自然と歴史文化に恵まれた佐賀にとって、脱原発の方向性を選択することこそが、我々県民の将来、未来への責任義務と弁えるべきである。



この県政提案箱は、職員が毎日投函の有無を確認しています。